

YNUキャンパスの哺乳類

2012年の理工学部2年生実習より



タヌキ (イヌ科)



ハクビシン (ジャコウネコ科, 外来生物)



イエネコ (ネコ科, 外来生物だが飼猫も含む)

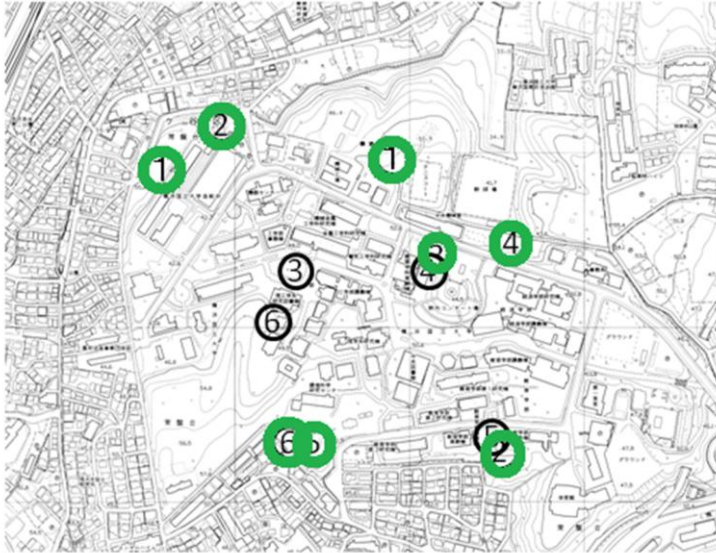


カラス類 (カラス科)



キジバト (ハト科)

キャンパス内の分布



タヌキとハクビシンの分布

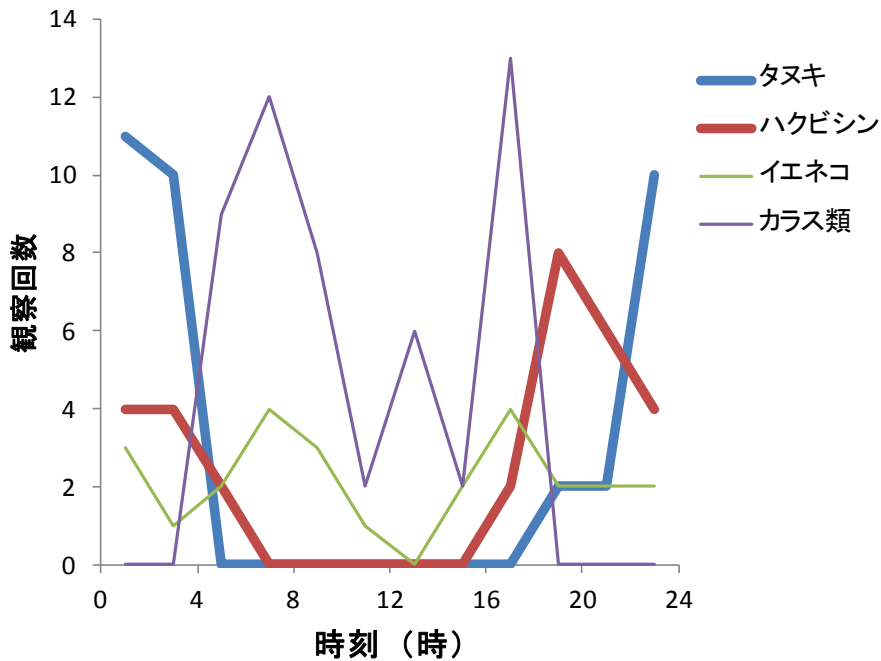


イエネコの分布



カラス類の分布

活動時間



タヌキやハクビシン、イエネコはキャンパス周辺部の森林で多く見られますが、カラス類は全域に出現します。タヌキとハクビシンは夜間に活動しています。カラス類は昼間のみに見られますが、特に朝と夕方に多い傾向があります。イエネコは昼夜の区別なく活動しています。

イエネコ、ハクビシン、カラス類はいずれも都市に多い種です。タヌキ、ハクビシン、イエネコ、カラス類はいずれも雑食性ですが、小形の脊椎動物（鳥類や両生爬虫類など）の捕食者になるため、そのような動物にとっては都市は捕食圧の高い環境であるようです。

小池文人

横浜国立大学 大学院環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻

理工学部担当 地球生態学 EP

koikef@ynu.ac.jp